



DNW-17014 の概要

課題番号 : DNW-17014

課題名 : タウ蛋白を標的とした抗体産生を誘導する認知症ワクチンの探索

主任研究者 (Principal Investigator) :

中神 啓徳 (国立大学法人大阪大学大学院医学系研究科)

課題番号 DNW-17014 では、タウ蛋白を標的として、新たなアルツハイマー病治療薬の創出に取り組んでいる。

- 創薬コンセプト :

神経細胞死や神経機能障害に関与するタウ蛋白を標的とし、その病変が脳内の神経細胞を侵していく過程に介入するアルツハイマー病治療薬である。タウ蛋白病変の形成過程に重要な特定の部位を標的とする抗体を産生する治療ワクチンを開発して、タウ蛋白病変が脳内神経細胞を侵していく過程を阻害することにより、中核症状の進行を止める、あるいは著しく遅らせるアルツハイマー病治療薬を創製する。

- ターゲットプロダクトプロファイル :

タウ蛋白病変に未だ侵されていない脳領域を保護するアルツハイマー病の治療ワクチン

- 創薬コンセプトの妥当性を支持するエビデンス :

タウ蛋白が、アルツハイマー病の病理に深く関与し、神経細胞死や神経機能障害の原因である可能性が報告されている。またタウ蛋白が、病変部から脳内を伝播して病変部が拡大する可能性が示唆されている。

- 最終目標 :

アルツハイマー病治療ワクチンを探索し、企業導出を図る。

本資料は、創薬総合支援事業 (創薬ブースター) による支援の終了時の情報をもとに作成しています。